

令和 4 年 5 月 23 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H02327

研究課題名(和文)中国古典戯曲の「本色」と「通俗」～明清代における上演向け伝奇の総合的研究

研究課題名(英文)"Bense" and "Tongsu" in traditional Chinese opera: general study on spieldrama of Ming-Qing period

研究代表者

千田 大介 (Chida, Daisuke)

慶應義塾大学・経済学部(日吉)・教授

研究者番号：70298107

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、明清代の通俗的な弋陽腔系について、北京および広東・台湾の事例から、土着化の過程および文化史的位置づけを解明した。北京については、『三皇宝剣』伝奇と他の台本資料を検討し、薛家将征西故事が弋陽腔系の京腔を通じて発展し、その影響下に小説が作られたことを明らかにした。また、明代文人の戯曲関連言説に見える「本色」という語を、テキスト分析手法を用いて検討し、その概念に関する比較的有效な説明を得た。清・焦循『劇説』・『花部農譚』の校訂本・邦訳、弋陽腔伝奇四種の翻刻を、台湾から『元明清戯曲資料彙編第一輯』として刊行した。漢字テキストの音韻情報を表示するシステムを開発し、プロトタイプを公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

樊梨花故事の事例は、京腔通俗伝奇が明代の講史小説から乾隆期の英雄伝奇的歴史小説への発展過程のミッシングリンクであることを示唆し、通俗文学史研究の可能性を拓くものである。台湾皮影戯台本の研究からは、これは現代中国にも見られる中央と地方、地域と地域の関係を、文化史的に理解する一助となろう。明代文人の言説に見える「本色」概念を整理し、意味内容を確定したことは、明清代文人の曲論・芸術論を理解する上で画期的であり、研究方法も示範的な意味を持つ。中国古典戯曲データベースに曲譜や戯曲本文を追加し、音韻分析システムを初期的に完成させたことは、内外の関連諸分野の研究発展に寄与することだろう。

研究成果の概要(英文)：This study has clarified the process of indigenization and the cultural-historical position of the Yiyangqiang in the Ming and Qing dynasties, based on examples from Beijing, Guangdong, and Taiwan. For the Beijing case, examining "Sanhuang baojian" and other script sources, we found that the story of Xue Jiajiang's conquest of the West was developed through the Jingqiang of the Yiyangqiang, and xiaoshuo was created under the influence. Moreover, the term "bense," which appears in the drama-related discourse of Ming dynasty literati, was examined using textual analysis to obtain a more valid explanation for it. Critical editions and Japanese translations of "Jushuo" and "Huabu nongtan" written by Jiao Xun in the Qing Dynasty, as well as transcriptions of four fictions of the Yiyangqiang, have been published in Taiwan as "Yuan Ming Qing Drama Materials, First Series". A prototype of a system for displaying phonological information from Chinese texts has been developed and released.

研究分野：中国文学

キーワード：中国古典戯曲 弋陽腔 本色 京腔 薛家将 皮影戯 人文情報学

1. 研究開始当初の背景

中国古典戯曲、雑劇・伝奇の研究は、当初、唐詩・宋詞の後を受けた文学ジャンルとして、美文学的観点から、明の湯顯祖の『還魂記』、清の江昇の『長生殿』といった読曲 レーゼドラマとしての受容に耐えうる作品・作家の研究が中心であった。一方、演劇史という観点からの研究は、1980年代以降、田仲一成氏が祭祀演劇の視点から演劇史を解釈する仮説を提唱するとともに、「15・6世紀を中心とする江南地方劇の変質について」で南戯の地域・階層による分化から清代の花部勃興に至る明清演劇史の枠組みを描出し、また近年、中国において清初に流行した石碑調の存在が明らかになるなど、進展が著しい。

その一方で、上演向けの伝奇に関しては、美文学的観点からは一等劣ることが否めないため、作家研究や小説の材源研究などの一環として言及されるケースが大半であるように見受けられる。古典戯曲・演劇を研究する上で、台本こそが最も重要な資料であることは論を俟たず、演劇史的研究がある程度進捗したからこそ、改めて戯曲台本に立ち返った研究が必要であると考えられる。

上演向けの戯曲は、通俗的な娯楽メディアであり、通俗文学作品は一般に作者と受容者との共同制作的性格を有するものと見ることができ、受容実態の解明や社会的コンテキストの側面から検討する必要がある。しかしこと中国古典戯曲に関しては、受容実態を詳細に知りうる資料が少ないという制約があるため、研究方法上の戦略が必要になる。

2. 研究の目的

本研究では、4つの方向から明清代の上演向け戯曲台本を考究する。

① 本色概念とその戯曲創作への影響の再検討

古典戯曲の創作・批評においては、本色が重要なキーワードとして用いられてきた。本色とは、戯曲本来の文辞の彫琢を凝らさない素朴自然な文体を指し、対義語は文采である。本色に関する先行研究は、多くが本色と文采という対立の観点から論じている。

しかるに、本色を提唱する文人であっても、通俗的であり、ゆえに本色的であると思われる庶民層に支持された弋陽腔の伝奇を尊重することはない。ここから、本色という批評タームの恣意性、および古典戯曲の通俗性を考察する端緒が得られよう。

かかる観点から、通俗との差異という新たな視点を導入しつつ、本色という概念を再検討し、その戯曲創作への影響を検討するとともに、戯曲の本色と通俗を分かつものについて考究する。

② 富春堂本弋陽腔伝奇と蘇州派崑曲伝奇の物語内容・語彙・音韻・表現等の分析

本研究では、社会的背景を共有すると思われる戯曲テキスト群を研究の対象とする。個別のテキストあるいは同一作者のテキストを扱うのに比して、テキストからより多くの情報が得られ、また紙媒体や芸能など他の娯楽メディアとの競争・共存関係のもと戯曲がいかなる社会的位置にあったのかを研究する上でも効果的であると思われるからである。

取り上げるテキスト群の一つは、明の万暦年間に金陵の書肆・富春堂によって刊行された一連の伝奇である。それらは南戯四大声腔でも通俗的な特徴を持つ弋陽腔の伝奇であるが、弋陽腔は万暦年間にはいくつかの支流に分かれており、必ずしも発祥地である江西弋陽の言語・文化を保持しているとは限らない。

もう一つは、明末清初に蘇州で活躍した李玉を中心とする作家グループ、所謂蘇州派による崑曲伝奇である。蘇州派の伝奇はいずれも上演向け台本であり、崑曲レパートリーの中心を占めるようになる。

それぞれについて物語内容や宗教的要素、語彙・音韻・類型的表現、本色論の影響などを分析し、それらのテキスト群が反映する文化的背景、地域性、階層性などを考究する。

③ 清代花部勃興期の戯曲における通俗概念の変容の検討

清代中期に現在の京劇等に直接に繋がる通俗的な花部諸腔が勃興すると、従来から地域を越えて流通していた崑曲・弋陽腔が雅部と称されるようになり、通俗的劇種概念が大きく変化する。

その様態を、清の焦循『花部農譚』の精読、および『綴白裘』などの戯曲選集における明清代の伝奇の収録状況、および収録台本の改変状況の検討などを通じてあきらかにする。合わせて、それら戯曲選集の編纂目的および読者がいかに受容したかについて考察する。

④ 情報学的手法の応用による戯曲研究方法の確立

②～③の研究においては、情報学的方法による語彙の出現頻度分析、曲の音韻分析、表現パターンの解析などを導入する。これによって研究の効率化を図るとともに、人が読解する際に見落としがちな情報をテキストから読み取り得るものと思われる。

申請者は従来から主要古典戯曲作品・周辺資料のデータベース化に取り組んできたが、本研究では、既に一定程度蓄積されたデータをさらに補完・拡張しつつ、具体的な戯曲研究に応用する。

3. 研究の方法

前述の4つの具体的な研究目的は、文芸批評理論的研究(①)、戯曲テキストとその社会的背景の研究(②③)、情報学的な研究方法・データベースの開発(④)に分類できる。このため、研究の効率化を図るため、研究組織を批評理論班、戯曲分析班、情報学班の3班に分割する。これら3班の取り扱う内容は、しかしそれぞれ単独に成立するものではなく、他のジャンル・班の研究内容と有機的に組み合わせさせてこそ意味を持つものである。このため、専用のメーリングリストとクラウドを設置して、情報交換とデータ共有を図るとともに、毎年上半期と下半期に一度ずつ研究集会を開催し、研究の進捗状況の擦り合わせと問題意識の共有を図る。

文芸批評理論的研究については、前述のように戯曲等の批評に見られる本色という用語を取り上げる。従来の研究では、用語の意味・用法を確定するための方法がとまれば曖昧であったが、本研究では、テキスト分析手法に基づいて「本色」をめぐる言説を分析し、その意味内容を検討する。

明清伝奇とその社会的背景の研究については、明代南戯四大声腔の一つで、通俗的な色彩の濃い弋陽腔で演じられたと思われる伝奇、および明末清初の李玉を中心とするいわゆる蘇州派の実演向け崑曲戯曲などを対象として、散齣集・宮廷演劇台本・地方劇台本・皮影戯(影絵人形劇)台本などとの比較対照し、中国における最新の演劇・戯曲研究の成果を踏まえ、各種演劇が上演環境や社会的背景によっていかに規定されたのかに留意しつつ、その文化史的位置づけを明らかにする。

情報学的な研究方法・データベースの開発については、従来の研究を通じて蓄積してきた戯曲本文、論著、曲譜、韻書などのデータの整理を進め、情報工学的なテキスト分析手法を応用した戯曲研究方法の確立、および戯曲研究上有用なデータベースの開発・改善を行う。

4. 研究成果

文芸批評理論的研究について、研究分担者・材木谷が中心となって研究を進めた。文人の言説に見える「本色」は、例えば王世貞の戯曲論について意味内容が一樣ではなく難解であることが従来から指摘されてきたが、明の李開先・王世貞・徐渭らの戯曲関連言説への検討を通じて、「本色」の概念を整理し検討することで、それぞれの言説における意味内容を比較的有効に説明し得た。また、「本色」という語により旧時の文人が措定しようとした概念への検討を深め、詩文・書画に関する言説など、趣味性が問題となる各種のジャンルに関する言説をも検討材料として加えた。

戯曲テキストとその社会的背景の研究について、本研究開始直後に『彙編校註綴白裘』(黄婉儀編註、台湾学生書局2017)・『明清孤本戯曲選本叢刊』(中国国家図書館出版社2017)が刊行されるなど研究状況が大きく変化したため、本研究期間においては、弋陽腔とその流れを汲む戯曲・演劇に対象を絞ることとした。

研究代表者・千田は、清代北京で弋陽腔が土着化した京腔(現在の北方崑曲)で演じられた、中国芸術研究所蔵『三皇宝剣』伝奇を調査し、内府本『西唐伝』・影巻『鎖陽関』などとの比較対照を通じて、乾隆年間北京では小説『説唐三伝』と異なる樊梨花故事が行われており、同内容の劇目が河北・山西など周辺地域にも見られること、内府本『西唐伝』・影巻『鎖陽関』は京腔系樊梨花故事と『三皇宝剣』系故事を合流させたものであること、『三皇宝剣』の一部に秦腔の女形・魏長生の十八番『滾楼』が取り込まれていることなどを解明し、清代中期北京で劇場における商業主義演劇の隆盛のもと粉戯(エロチックな芝居)が流行したことが、女将軍の活躍する物語のニーズを産み、それが清代に薛家将故事をはじめとする家将ものが盛行した一因であるとの仮説を提起するとともに、小説『説唐三伝』が先行小説を継承しつつ、京腔の影響を受けつつ成立した過程を明らかにした。また、従来存在が知られていなかった嘉慶二十四年慶郡王府戯班の名簿を翻刻・公刊した。

研究分担者・山下は、台湾皮影戯の主要レパートリーである『白鷺歌』・『蘇雲』・『割股』を題材に、それらが明代南戯や弋陽腔系伝奇から台湾・広東省東部潮州の地方劇を経て台湾皮影戯に至る過程を解明した。これによって、南戯・弋陽腔が土着化して地方劇種が形成される過程を具体的に解明するとともに、台湾の歴史・文化研究の最新の成果を踏まえて、従来、台湾の演劇・芸能は福建省南部に起源すると思われていたが、台湾皮影戯が広東省潮州一帯に起源し、台湾の潮州系演劇の最後の生き残りであることを指摘した。

研究分担者・川は浙江省麗水市縉雲県張山寨七七会を現地調査して、弋陽腔が現地化して形成された劇種である婺劇の上演や受容の実態を明らかにした。また、何文秀故事を演ずる『玉釵記』などの伝奇の形成・変遷過程を検討し、弋陽腔・崑曲および弾詞などの影響関係の一例を明らかにした。研究分担者・二階堂は華光・関帝・招宝七郎などの中国の古典小説・戯曲などの通俗文芸にも見られる神について調査を行い、信仰が中華圏のみならず日本や東南アジアに広く及んでいることを明らかにした。

これらの研究と併行して、古典戯曲関連資料の整理を進め、研究代表者・千田、研究分担者・山下・川は、清・焦循『劇説』・『花部農譚』の校訂・邦訳、および明の万暦年間に金陵富春堂より刊行された弋陽腔系伝奇『劉玄德三顧草廬記』・『白袍記』・『鸚鵡記』・『昇仙記』の校注本を、

台湾博揚文化出版社より『元明清戯曲資料彙編 第一輯』として刊行した。

中国古典戯曲の翻刻・校訂作業では、曲牌の曲律を調査する必要があるが、こと南曲に関しては決定版と言える工具書や索引がないため、複数の曲譜を参照する必要があり、調査の手間がかかる。かかる状況を改善するため、明代から現代までの曲譜・戯曲関係辞典の曲牌索引を作成するとともに、『欽定曲譜』・呉梅『南北詞簡譜』を電子テキスト化し、それらのデータを整合して中国古典戯曲に登録した。曲牌ごとにページを作成し、検索による表示のみならず、宮調分類に基づく閲覧などを実現した。

また、方言音に基づくと思われる弋陽腔系伝奇には、『中原音韻』などから逸脱する押韻や音注が見られるが、それらがいかなる地域制に基づくのかを把握することは、音韻学を専攻していない研究者にとって困難である。このため、『中原音韻』・『中洲全韻』・平水韻・『漢語方音字匯』などを用いて、音韻テーブルのプロトタイプを作成した。それを用いて、研究分担者・師・上地がテキストボックスに入力された文字列に音韻情報・韻字情報を付加するプログラムを作成した。

以上、新型コロナウイルスの流行により、予定していた中国・台湾での現地調査が実施できなくなるなどの影響があったものの、収集済みの文献を中心とした研究に切り替えることで、中国古典戯曲における通俗性の一端を、多角的に明らかにし得たものと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計52件（うち査読付論文 27件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 42件）

1. 著者名 千田大介	4. 巻 14
2. 論文標題 「馬脚を露わす」考論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日吉紀要・中国研究	6. 最初と最後の頁 pp.105-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 千田大介	4. 巻 第19輯
2. 論文標題 旧西唐故事初探	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 pp.25-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山下一夫	4. 巻 第19輯
2. 論文標題 台湾皮影戯『割股』考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 pp.5-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 なし
2. 論文標題 マレーシアの寺廟にみる神仏融合	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神仏融合の東アジア史（名古屋大学出版会）	6. 最初と最後の頁 pp.274-293
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 なし
2. 論文標題 アジアと日本の神仏信仰	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界のなかの日本宗教 (吉川弘文館『日本宗教史』第2巻)	6. 最初と最後の頁 pp.292-315
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 師 茂樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 Biography as Narrative: Reconsideration of Xuanzang 's Biographies Focusing on Japanese Old Buddhist Manuscripts	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 From Chang 'an to Nalanda: The Life and Legacy of the Chinese Buddhist Monk Xuanzang (602?-664) (Proceedings of the First International Conference on Xuanzang and Silk Road Culture)	6. 最初と最後の頁 pp.252-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千田大介	4. 巻 第18輯
2. 論文標題 粉戯と陣前招親 西唐故事の形成と展開をめぐる仮説	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 5-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 千田大介	4. 巻 第18輯
2. 論文標題 中国古典戯曲研究のための曲牌・音韻データベースの開発	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 64-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山下一夫	4. 巻 第18輯
2. 論文標題 濟公傳在日本 以《通俗醉菩提全傳》、《本朝醉菩提全傳》為主	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 45-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山下一夫	4. 巻 232号
2. 論文標題 中国の影絵人形劇の「伝統」と「近代」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 177-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 第71集
2. 論文標題 二十四諸天における仏道習合について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本中国学会報	6. 最初と最後の頁 135-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 2019年第1集
2. 論文標題 関公与足利尊氏 日本最古関公神像伝説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 道教学刊	6. 最初と最後の頁 177-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 材木谷敦	4. 巻 言語・文学・文化125号
2. 論文標題 「本色」という語をめぐる 書論を参考に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中央大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 121-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千田大介	4. 巻 第17輯
2. 論文標題 北京皮影戲西唐故事考 「大罵城」と『三皇宝剣』伝奇を軸に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 91-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 千田大介	4. 巻 第17輯
2. 論文標題 嘉慶二十四年慶郡王府戲班花名单考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 一-七
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 1
2. 論文標題 『水滸全傳』與華光大帝信仰	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 陳偉強主編『道教修煉與科儀的文學體驗』(鳳凰出版社)	6. 最初と最後の頁 611-625
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 材木谷敦	4. 巻 言語・文学・文化123号
2. 論文標題 王世貞の戯曲関連言説における「本色」について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中央大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 213-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下一夫	4. 巻 第17輯
2. 論文標題 台湾皮影戯『蘇雲』考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 38-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 師茂樹	4. 巻 28(2)
2. 論文標題 Remarks on the 3DCG Visualization of Lost Buddhist Temples	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Buddhist Thought and Culture	6. 最初と最後の頁 87-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川浩二	4. 巻 第17輯
2. 論文標題 2017・2018年度浙江省麗水市縉雲県「張山寨七七会」演劇上演調査報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 152-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 第50輯
2. 論文標題 東アジアの伽藍神信仰	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関西大学東西学術研究所紀要	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 千田大介・師茂樹	4. 巻 第17号
2. 論文標題 主要OS の読み上げ機能	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 72-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 千田大介	4. 巻 第十六輯
2. 論文標題 北京西派皮影戲錫慶班をめぐって 北京・冀中・冀東皮影戲形成史考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 58-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上地宏一	4. 巻 第17号
2. 論文標題 Web フォントの現状	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山下一夫	4. 巻 第百十二号
2. 論文標題 清朝宮廷演劇『混元盒』の成立と上演	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 藝文研究	6. 最初と最後の頁 37-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下一夫	4. 巻 第十六輯
2. 論文標題 台湾南部における影絵人形劇の上演について 中元節を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 30-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 材木谷敦	4. 巻 第16輯
2. 論文標題 李開先「西野春遊詞序」について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 師茂樹	4. 巻 第17号
2. 論文標題 『印度學佛教學研究』の書誌XML によるオンラインジャーナル化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漢字文献情報処理研究	6. 最初と最後の頁 180-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川浩二	4. 巻 科学出版社東京（発行）・国書刊 行会（発売）
2. 論文標題 刺繍部屋の令嬢たち 明代伝奇における刺繍の場面から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国演劇史図鑑	6. 最初と最後の頁 306-316
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計34件（うち招待講演 5件／うち国際学会 10件）

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 「馬脚を露わす」話
3. 学会等名 中国都市芸能研究会2020年度冬季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山下一夫
2. 発表標題 台湾皮影戲上四本の『割股』について
3. 学会等名 中国都市芸能研究会2020年度冬季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 日本佛寺中所見道教系神像
3. 学会等名 道教與物質文化 - 圖像、藝術、神話與文學論壇（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上地宏一
2. 発表標題 グリフウィキと花園フォントの現状
3. 学会等名 漢字文献情報処理研究会第23回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上地宏一
2. 発表標題 グリフウィキを総覧する
3. 学会等名 シンポジウム「字体資料共有の現在と未来」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 師 茂樹
2. 発表標題 mrogram: Background, History, and Purpose of a Tool for East Asian Text Analysis
3. 学会等名 古代文献の言語分析から読み解く社会背景のダイナミズム(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 師 茂樹
2. 発表標題 デジタル・ヒューマニティーズにおいて研究対象の範囲を限定することの必然性と方法についての予備的考察
3. 学会等名 第2回関西デジタルヒストリー研究会(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 北京・冀中皮影戲のレパートリーをめぐって
3. 学会等名 中国都市芸能研究会2019年度春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 中国古典戲曲の音韻分析のために
3. 学会等名 漢字文献情報処理研究会 第22回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 シンガポール・マレーシアの中元行事について
3. 学会等名 中国都市芸能研究会2019年度冬季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 漢籍研究環境の変容と今後の課題
3. 学会等名 共同シンポジウム「情報化時代の東洋学研究 デジタルアーカイブスの現状と課題」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 《神仙通鑑》所見的明清期洞天福地
3. 学会等名 第1屆洞天福地研究與保護國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 師茂樹
2. 発表標題 漢文古典文献を分析するためのツールの普及に向けた取り組み
3. 学会等名 漢字文献情報処理研究会 第22回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 北京・冀中皮影戲のレパートリーをめぐって
3. 学会等名 中国都市芸能研究会2018年度春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 論北京、河北皮影戲之演變
3. 学会等名 偶戲無國界 台日港偶戲交流座談會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 皮影戲の大西唐故事をめぐって 「大罵城」・北京皮影戲・台湾皮影戲
3. 学会等名 中華圏の影絵人形劇（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 中華圏の影絵人形のデザインと系譜
3. 学会等名 台湾ローカル文化と中華文化 映画・影絵人形劇・布ボテヒ袋戲、そして『Thunderbolt Fantasy』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 関公与足利尊氏 日本最古関公神像伝説
3. 学会等名 2018関公文化国際学術前沿論壇
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 日本に来ている道教・民間信仰の神々
3. 学会等名 阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット「公開講座フェスタ2018」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下一夫
2. 発表標題 現代中国における関公廟の仏教寺院化について
3. 学会等名 中国都市芸能研究会2018年度春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下一夫
2. 発表標題 台湾皮影戲《白鷺歌》和弋陽腔
3. 学会等名 偶戲無國界 台日港偶戲交流座談會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下一夫
2. 発表標題 台湾皮影戲「蘇雲」考
3. 学会等名 中華圈の影絵人形劇（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下一夫
2. 発表標題 台湾の人形劇 野外上演から『東離劍遊紀』まで
3. 学会等名 台湾ローカル文化と中華文化 映画・影絵人形劇・布ボテヒ袋戲、そして『Thunderbolt Fantasy』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下一夫
2. 発表標題 1950年代における「反動会道門」の取締をめぐって
3. 学会等名 中国都市芸能研究会2018年度冬季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下一夫
2. 発表標題 当代中国関公廟之佛教化
3. 学会等名 2018関公文化国際学術前沿論壇（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 師茂樹
2. 発表標題 Remarks on the 3DCG Visualization of Lost Buddhist Temples
3. 学会等名 Digital Humanities and Buddhism ? Focusing on Data Mining and Visualization (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上地宏一
2. 発表標題 大規模漢字集合の文字検索を自作する
3. 学会等名 漢字文献情報処理研究会第二十回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下一夫
2. 発表標題 台湾南部における影絵人形劇の中元普渡上演
3. 学会等名 道教文化研究会例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山下一夫
2. 発表標題 台湾における影絵人形劇の上演と分布
3. 学会等名 日仏東洋学会シンポジウム「アジア的芸能の地平へ」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 千田大介
2. 発表標題 北京皮影戲の短編台本集をめくって
3. 学会等名 中国都市芸能研究会 2017 年度春季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 東南アジアの福建系寺廟 台湾との違いを中心に
3. 学会等名 中国都市芸能研究会 2017 年度冬季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川浩二
2. 発表標題 明英烈故事發展与《太平春》類劇目演變之探討
3. 学会等名 第12屆通俗文学与雅正文学 「近現代文学与文化」國際學術研討會
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 漢字文献情報処理研究会、千田大介、小島浩之、上地宏一、二階堂善弘、師茂樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 好文出版	5. 総ページ数 572
3. 書名 デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル	

1. 著者名 二階堂善弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 関西大学出版部	5. 総ページ数 143
3. 書名 東南アジアの華人廟と文化交渉	

1. 著者名 石光生、邱一峰、山下一夫、氷上正、戸部健、千田大介、平林宣和、佐藤仁史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 好文出版	5. 総ページ数 208
3. 書名 中華圏の伝統芸能と地域社会	

1. 著者名 氷上正、山下一夫、千田大介、吉川龍生	4. 発行年 2018年
2. 出版社 好文出版	5. 総ページ数 110
3. 書名 台湾ローカル文化と中華文化	

1. 著者名 氷上正、山下一夫、戸部健、千田大介、平林宣和、佐藤仁史、二階堂善弘	4. 発行年 2018年
2. 出版社 台北：博揚文化事業有限公司	5. 総ページ数 282
3. 書名 地方戯曲和皮影戯 日本學者華人戯曲曲藝論文集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>中国古典戯曲資料庫 http://ccddb.econ.hc.keio.ac.jp/wiki/ 中国古典戯曲データベースプロジェクト http://ccddb.econ.hc.keio.ac.jp/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	二階堂 善弘 (Nikaido Yoshihiro) (70292258)	関西大学・文学部・教授 (34416)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	材木谷 敦 (Zaimokuya Atsushi) (70307172)	中央大学・文学部・教授 (32641)	
研究分担者	山下 一夫 (Yamashita Kazuo) (20383383)	慶應義塾大学・理工学部（日吉）・教授 (32612)	
研究分担者	師 茂樹 (Moro Shigeki) (70351294)	花園大学・文学部・教授 (34313)	
研究分担者	上地 宏一 (Kamichi Koichi) (20468721)	大東文化大学・社会学部・准教授 (32636)	
研究分担者	川 浩二 (Kawa Koji) (30386578)	立教大学・外国語教育研究センター・教育講師 (32686)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関